

平成20年度 郷土資料館特別展

「ジョセフ・ヒコ」

播磨町で生まれた「新聞の父」ジョセフ・ヒコが
1858年にアメリカの市民権を得てから、今年で150周年となります。

② 架け橋として

今月は、ジョセフ・ヒコのお墓を紹介しましょう。
ジョセフ・ヒコのお墓は東京の青山外国人墓地の中にあります。



▲お墓の形は日本式。「浄世夫彦之墓」と刻まれています。

【ヒコ・クイズ】 なぜ、外国人墓地にお墓が建てられたのでしょうか。

- ①アメリカの人だから
- ②友達のそばに埋めてもらったから
- ③自分の家が見えるところだから

ジョセフ・ヒコは、1897年に東京で亡くなりました。60歳でした。写真のお墓は妻の銀子さんによって建てられました。

ジョセフ・ヒコの60年間を振り返るとき、日本とアメリカとの架け橋として、活躍したのは、だれもが認めることです。アメリカの憲法を紹介したり、『海外新聞』でアメリカの様子を詳しく伝えたりと、今なお、だれもがその質の高さを認めています。その結果、晩年になっても、アメリカとのつながりは強く、多くの友情によって支えられていました。

しかし、ジョセフ・ヒコ自身は、帰国に先だって1858年に、アメリカの市民権を得たことを、少し反省もしています。アメリカの市民権を得たのは、尊皇攘夷が吹き荒れる日本へ戻るにあたり、アメリカの人として帰ることで、身の安全を保障できるのではとの願いが込められていました。

帰国当初はアメリカの人となったことで、かなり保護もされましたが、時代が明治時代になり落ち着くと、日本人として生活をしたと思うように変わりました。

そこで、できれば市民権を日本に戻したいとの働きかけをしましたが、その夢はかきませんでした。そのため、亡くなったときも、アメリカの人として、

東京の青山外国人墓地に埋葬されました。
(郷土資料館 田井恭一)



- クイズの答 ●
- ① アメリカの人だから

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079 (435) 5000

絵ものがたり『ジョセフ・ヒコと洋式帆船の男たち』(播磨町ふるさとの先覚者顕彰会) 発売中2,500円

町の人口 4月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,316人(-34人)	男...16,829人(-17人)	世帯数...13,297(+3)
	女...17,487人(-17人)	

